

Kyushu International University

学校法人九州国際大学

第四期中期経営計画

2024年度～2028年度

【5力年計画】



Beyond-可能性をカタチに

そのことは、
学生・生徒のために
なすことか

Plan-Do-Check-Action

九州国際大学

九州国際大学附属高等学校

九州国際大学附属中学校

第四期中期経営計画 目次

| | |
|----------------------|---|
| はじめに..... | 1 |
| 学校法人九州国際大学の経営理念..... | 2 |
| めざす教育像..... | 4 |

九州国際大学

| | |
|-----------------------|----|
| 1章 学生募集及び入学者選抜施策..... | 5 |
| 2章 教育・研究..... | 6 |
| 3章 学修支援..... | 8 |
| 4章 学生支援..... | 9 |
| 5章 地域連携・社会連携..... | 11 |
| 6章 国際化推進..... | 12 |
| 7章 就職・進路支援..... | 13 |

九州国際大学附属高等学校

| | |
|------------------|----|
| 8章 附属高等学校運営..... | 14 |
|------------------|----|






九州国際大学附属中学校

| | |
|-----------------|----|
| 9章 附属中学校運営..... | 16 |
|-----------------|----|

学校法人

| | |
|---------------|----|
| 10章 経営管理..... | 18 |
| 11章 財務..... | 20 |
| 12章 施設設備..... | 21 |

関係資料

| | |
|--|----|
|  第四期中期経営計画（2024-2028）KGI・KPI ダッシュボード..... | 24 |
|  中期経営計画の実効性を高める組織創造に向けた全体像..... | 25 |
|  改正私学法等を契機として健全な経営を行う重要な機能..... | 26 |
|  本法人が求める人材像..... | 27 |
|  九州国際大学中期経営計画サマリー..... | 28 |

はじめに

学校法人を取り巻く環境は、加速度的に進む少子化によってますます厳しい状況を迎えます。また、現代社会は非常に不安定な時代に突入し、不確実な世の中を生きる上で必要な人材（スキル）が求められています。学校法人九州国際大学は北九州地域に立脚した教育機関として、国際化、情報化、科学技術の発展及び環境の問題などの社会変化を踏まえた教育の在り方を探求し、先行き不透明な時代を生き抜く力を育むことを使命として地域に必要とされる学園づくりに邁進してまいります。

その上で、本法人の使命を果たしていくためには、これまで以上に強固なガバナンス体制を構築し、内部統制システムのさらなる強化を図っていくことが重要であると考えております。そこで最も必要とされるのがコミュニケーションです。教職員が共通の目的意識を持ち、学園の内外に向けたメッセージを発信し、学生生徒・保護者・地域社会の皆様との良好な関係が構築できるようコミュニケーションの促進を図ってまいります。同時に、教職員間の情報共有を支援し、ビジョンやポリシーの共有を基軸とした中長期計画を推進していきます。これこそが、学園の発展に最も重要なことであると確信しております。

学校法人九州国際大学が社会から信頼され、選ばれ続ける学園であるために、建学の精神に掲げる「塾的精神」のもと、社会に貢献できる質の高い教育研究機関を目指し、実社会を支える有能な人材育成を目標として、本法人の持続的発展に向けて「守る経営」から「攻めの経営」へと転換するための組織文化の醸成に向けて鋭意取り組んでまいります。

ここに、全教職員が一丸となり、新たな時代を刻んでいくために学校法人九州国際大学第四期中期経営計画（2024-2028）を掲げ、業務を遂行する上でシンボルとなるスローガンのもと、更なる発展に繋げてまいります。関係各位には一層のご理解とご協力をお願い申し上げます。

Beyond-可能性をカタチに

そのことは、
学生生徒のために
なすことか

学校法人 九州国際大学
理事長 権 堂 健 司

学校法人九州国際大学の経営理念

第四期中期経営計画における経営理念として「安定的持続経営」「地域No.1」を掲げます。

「安定的持続経営」「地域No.1」は、「ミッション」、「ビジョン」、「バリュー」の3つの要素で構成されます。

学校法人九州国際大学（以下「本学園」という。）のミッションは、「単に知識を授けるばかりでなく、塾的精神により、相互に心的鍛錬をなし、もって誠実有為なる人材を養成する」という本学園の建学の精神です。

この建学の精神であるミッションの達成を目指して「教育」、「研究」、「社会貢献」等の活動を如何に実践的、効果的に行うかがビジョンであり、本学園の目指す「あるべき姿」と言えます。

ビジョン達成のためには、本学園の構成員が一丸となって取り組むべきバリューが必要です。本学園がこれから具体的に取り組むべき4つのバリューを以下のとおり定めます。

明確な目標を掲げ、達成をめざす

透明性を高める

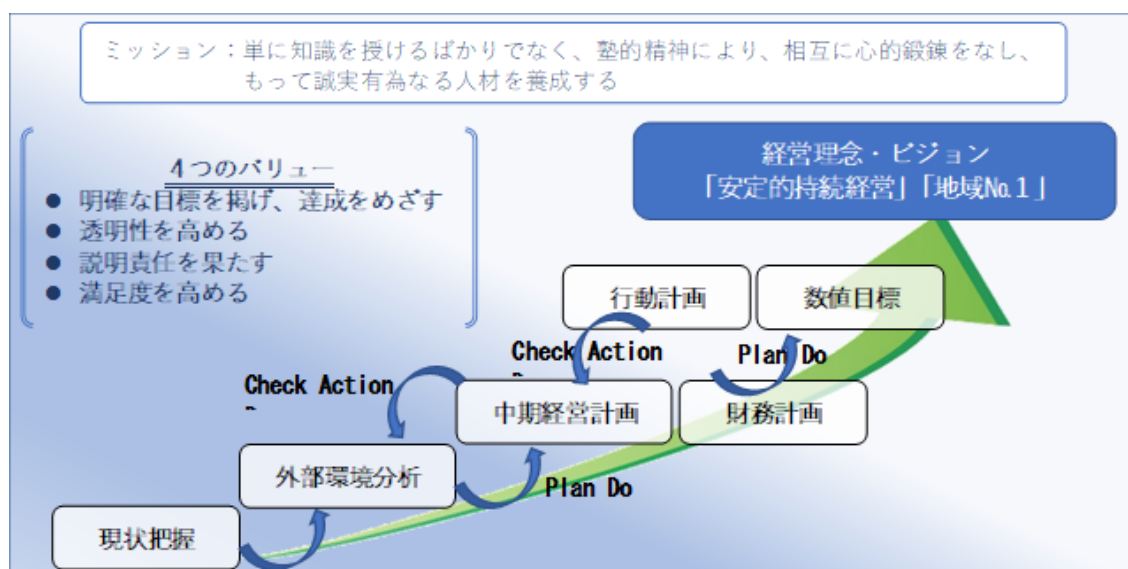
説明責任を果たす

満足度を高める

本学園に関わる全ての教育職員や事務職員等（以下「職員」という。）が業務を遂行する際には、学校法人九州国際大学行動規範をお手本として常に心に留め、本学園のバリューを合言葉として活動するという一連の対応こそが本学園の経営の指針です。

これらの一連の方策を表したのが図1です。

図1 安定的持続経営のための方策（スパイラルアップ戦略）



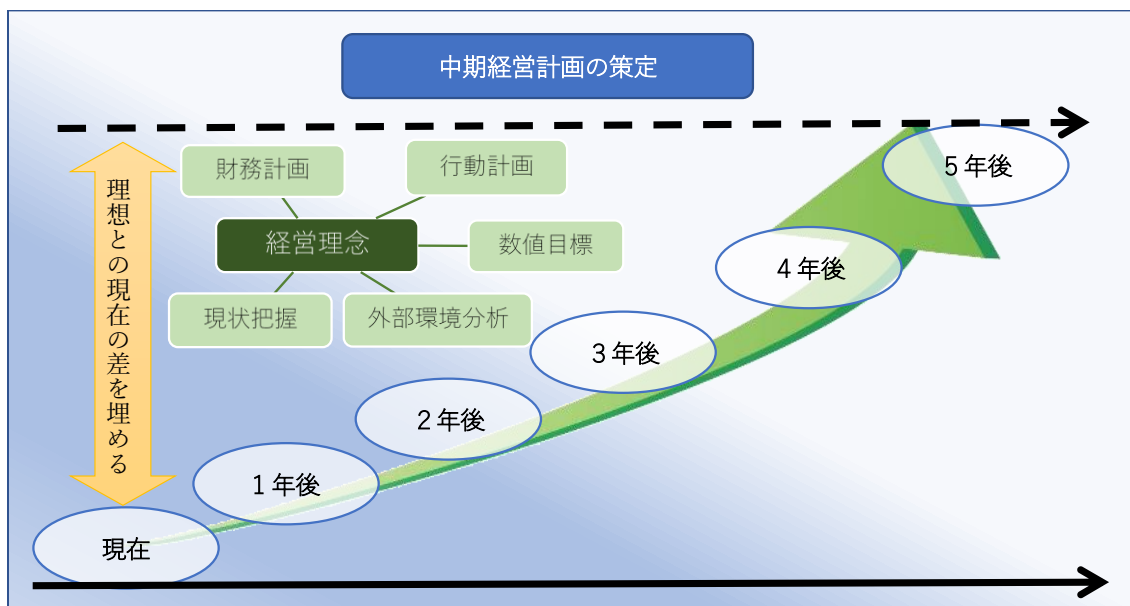
現状分析においては、各設置学校でSWOT分析を実施いたします。SWOT分析の結果をもとに、第四期中期経営計画における経営の基軸を明確にします。

中期経営計画の作成は、法人事務局並びに各設置学校において中堅若手職員を含めたプロジェクトチームを立ち上げて対応することで、本学園職員の人材育成を同時に実践いたします。

現状把握によって共有された本学園の状況を中期経営計画へと押し進めるためには、地域や他の学校法人等の状況などを観察し、教育産業の動きなど「市場原理への対応」を図る必要があります。社会環境やその動向、文部科学省の政策など「外部環境分析」を行い、客観的な情報やデータ分析に基づき対応することを推奨します。

こうして作成された中期経営計画には、本学園の将来のあるべき姿とそこに至るまでの変化やシナリオを描いた詳細な計画が盛り込まれていることとなります。中期経営計画とは現実を目標に近づけるために、今後5年間でどのような取り組みを計画的に進めていくかということを表した設計図です（図2参照）。

図2 中期経営計画の策定



経営理念とした「安定的持続経営」「地域No.1」を目指すため、中期経営計画においては財政的な裏付けとして財務計画を策定いたします。

図1で示した通り、4つのバリューを具現化することで進むべきベクトルを共有し、経営・財務体質の強化を目指します。収入面では、授業料や補助金収入の増加に加え、寄付金募集の強化を図り経常収入の増加を目指します。支出面では、経費の適正化であり費用対効果を最大化できる経費への取り組みを行います。その結果、経常収支差額が収入超過となり、将来の建物や設備への投資に対応することが理想です。そのため、設置学校の中期経営計画は、安定的持続経営という観点で財務計画との整合性を図り、その調整を行うことで適正化します。

九州国際大学

人生を、未来を変える。
本当の自分と出会う大学。



大学の教育理念

- 本学は、建学の精神に掲げられた「塾的精神」に基づいた教育を実践する。塾的精神の要は、人格を介した信頼関係にあり、教員、学生、職員相互の信頼関係の土台の上に、一人ひとりを大きく育てる教育を行う。
- 本学は、地域社会及び国際社会で信頼される品性高き人材の育成を目標とする。北九州市に根差し、多様な価値観が存在する国際社会に対する理解力を高め、地球の未来を見据えつつ、学ぶ姿勢を生涯貫く人材を育成する。
- 本学は、基礎的能力を備え、理論・実践両面に明るい人材を育成する。社会を透視できる理論の学習と共に、演習、実践を積極的に行い、人間社会と自然環境に共感し、能動的な働きかけができる人材の育成に力を注ぐ。

九州国際大学付属高等学校

目標へ、その先の未来へ。
選ばれるには理由がある。



目指す学校像

- 生徒の夢と目標を実現できる進学校
- 他を思いやる豊かな心を育む学校
- 文武両道を実践する学校
- 時代をリードする国際性を育てる学校

目指す生徒像

- 高い知性と確かな学力を持つ生徒
- 社会の一員としての礼儀、マナーを身につけた生徒
- 心身ともに健やかで逞しい生徒
- 深く考え、自ら行動する聡明な生徒

九州国際大学付属中学校

自分の限界を超えていく。
広がる未来は想像以上。



教育目標

- 知・徳・体の調和のとれた生徒を育成する
- 個性や能力に基づいた進路希望を実現する

目指す生徒像

- 志を高く持ち、意欲をもって学習に取り組む生徒
- 優しさと思いやりの心をもって、積極的に行動する生徒
- 自らに厳しく、責任感をもって、たくましく活動する生徒

九州国際大学

Beyond

可能性をカタチに

個性の伸長と人格の完成を旨とし、専門知識を教授し、北九州の地域に立脚して、国際的視野を持った理論・実践両面に明るい人材を養成することを目的とします。

VUCA の時代下、地域教育・国際教育を柱として、ステークホルダー（受験生・在学生・保護者・地域社会・卒業生）にとって“魅力溢れる地域No.1 大学”としての Position を確立します。

1 章 学生募集及び入学者選抜施策

中期目標

建学の精神に基づき地域に必要な大学として、また、地域No.1 の大学として存続すべく本学の魅力を最大限に引き出し、アドミッション・ポリシーに基づき、戦略的・効果的な入試広報を実践してまいります。

実施計画

1. 第一志望の志願者確保の促進（“見せる”から“魅せる”取組みへ）
 - (1) 魅力あるオープンキャンパスの実施
 - (2) 効果的な出張講義・大学見学会の実施
 - (3) ホームページや SNS 等を活用したイベント・入試関連情報の発信強化

2. 高大連携事業の強化・推進
 - (1) 高等学校との定期的な意見交換体制の構築
 - (2) 高大連携校とのつながりを大切にした取組強化

3. 入学者選抜の再構築
 - (1) 総合的な英語力評価の導入
 - (2) 入学者選抜の検証を踏まえた新たな施策の導入

2章 教育・研究

中期目標

教育については、「教学マネジメント指針」で掲げられている「学修者本位の教育の実現」に向け、教育の質保証に関わる基盤と体制を安定的かつ継続的に推進できる環境を組織的・体系的に整えます。学修者目線に立ち、様々な取り組みに対する点検・評価を実施しながら不断の改善に努め、大学の個性や特色を生かした教学マネジメントを構築します。

研究については、研究力強化を目的に、研究活動を取り巻く環境の編制と充実を図り、研究者および大学の長を生かした学術的な発信・発展を目指します。また、価値ある豊かな研究の土壌を醸成していくため、外部資金の一層の獲得を推進します。

実施計画

1. 教育の質保証の推進体制の確立

- (1) 三つのポリシーに基づき学生を成長に導く教育改革の実現
- (2) 教学 IR 情報を活用した教育課程の適切性の検証と改善のサイクル運用確立
- (3) 学生の成長実感や満足度等の可視化
- (4) 学生の能動的な学修促進に向けた教育環境の整備
- (5) 進学者ニーズ等を踏まえた成長分野への教育改革促進
- (6) 全学的なデジタルリテラシー向上のためのデータサイエンス科目の設置
- (7) 地域で学び、地域を支える学部教育の充実
- (8) 在学中の留学や海外体験等を経て社会で貢献できる教育体制の確立
- (9) 教育組織の高度化に向けた教員評価制度の再構築
- (10) 高等教育施策（私大政策）を推進する政策誘導化型補助金の獲得

2. 質保証システムの客観性及び透明性の向上

- (1) 質保証システムの評価基準の明確化
- (2) 自己点検・評価プロセスの改善（外部評価の活用、評価結果の公開、データ利用）
- (3) 大学機関別認証評価指摘事項に対する対応及び評価結果を踏まえた改善・改革の推進

3. 効果的な FD・SD 活動及び教学 IR の推進

- (1) 教育方法、カリキュラム開発等を中心とした FD・SD プログラムの充実
- (2) アセスメントプランを意識した教学 IR 機能の強化
- (3) 知識・経験（インプット）を活用して実践（アウトプット）し、結果・成果（アウトカム）に向かう研修活動の推進

4. 情報通信技術 (ICT – Information and Communication Technology) を活用した教育の推進
 - (1) 学生の PC 携行促進及び ICT 教育推進に向けた適切なインフラ整備
 - (2) 授業等における効果的な ICT の活用方法検討
 - (3) 効果的な ICT 教育実現のための計画策定及び技術支援・教育支援を行なえる体制の確立

5. 地域に貢献する研究拠点化及び研究成果の社会発信推進
 - (1) 地域との連携強化 (共同研究、共同 PJ)
 - (2) 地域の課題解決への貢献 (課題に対する PJ の展開)
 - (3) 研究成果の社会発信 (地域のイベント、シンポジウムへの参加、メディアへの情報提供)

6. 研究支援体制の強化
 - (1) 魅力ある研究の実現に向けた満足度調査の実施及び研究環境の整備
 - (2) 研究支援組織 (社会文化研究所・図書館・地域連携センター) の機能見直し及び研究費の一元化
 - (3) 北九州地域をフィールドとした研究活動の支援

7. 外部資金獲得の支援
 - (1) 科学研究費補助金獲得のための講座実施

8. コンプライアンス教育の推進
 - (1) 研究倫理教育 e-ラーニング・研修会の実施
 - (2) 研究費不正使用防止・不適切事案防止の啓発活動の実施

9. 研究成果の情報発信の強化
 - (1) 地域連携講座・シンポジウム・地域活動を通じた研究発表の実施
 - (2) 研究成果のオープンアクセス (学術成果リポジトリ) の推進

3章 学修支援

中期目標

学生の出席（出校）率の向上、並びに大学キャンパスでの滞在時間を増やし、大学生生活の満足度を向上させるため、学修支援、キャリア開発、教育支援など、あらゆる角度においてエビデンスに基づく行動計画を策定し実践します。

実施計画

1. 学修成果の可視化促進及び活用
 - (1) 学生ポートフォリオによる学修成果把握・分析
 - (2) PROG テスト結果の進路選択への活用（キャリア支援室の取組と連携）

2. 各種補講講座の充実
 - (1) IT・語学・資格入門講座の企画・開講
 - (2) もの企画・もの作り・もの販売講座の企画・開講
 - (3) ボランティア活動の単位化
 - (4) 追加補講の検討

3. 基礎学力の定着を目指した教育プログラムの実践
 - (1) 入学前教育におけるキウウドリルの受講促進
 - (2) 初年次教育におけるキウウドリルの実施

4. 学生の可能性を広げる教育機能の強化
 - (1) 基礎教育センターとエクステンションセンター機能の再構築
 - (2) 学修支援アドバイザー機能の拡充

5. 教育支援機能を意識した図書館機能の拡充
 - (1) レファレンス・サービスの充実及び貸出業務の効率化
 - (2) 教育効果の向上に寄与する図書等の資料提供
 - (3) 学習環境としての図書館施設の活性化推進
 - (4) 蔵書の電子化検討
 - (5) 図書館を活用した地域貢献事業の検討

4章 学生支援

中期目標

貴重な大学生生活を有意義に送るため、サークルやボランティアなどの課外活動、大学祭などのイベント、アルバイト等を通して、周囲と協力し、社会とつながりを意識した取組みを展開します。また、多様性の時代における学生の考え方をもとに、社会の一員として生きる基盤を育ててまいります。

個々の学生が学生生活全般の中で自ら考え、行動する自律性と責任感を備え、ガクチカ（学生時代に力を入れたこと）づくりに向けて、心身ともに健康な状態で充実した学生生活を送れるようキャンパスライフを支援します。

また、重要課題とされる中途退学に関して、十分な現状分析を行い、中途退学の予兆を捉え、学生の主体性とモチベーションを醸成し、学生のタイプ別のフォローを実践してまいります。

実施計画

1. 学生生活等支援

- (1) 学生生活及び心身の健康等に対する支援
- (2) キャンパスでの滞在時間や憩いの場を意識した環境整備
- (3) 学生支援の現状およびニーズ等を把握するためのアンケート調査の実施
- (4) 大学生活への安定的移行を実現するオリエンテーション実施
- (5) フレッシュヤーズミーティング実施による入学後の居場所・友人づくり支援
- (6) 授業の欠席を早期に把握し、個別フォローができる体制づくり
- (7) 上記を通じた中退予防対策の検討

2. 課外活動等を通じた「ガクチカ」支援

- (1) サークル活動の活性化及びこれら活動を通じた人間力育成支援
- (2) 大学生活を豊かにする学生自治活動（四協）の自律化支援
- (3) 職業観の育成や社会奉仕の精神を涵養する地域活動（ボランティア）支援

3. 経済的支援及び大学独自の奨学金制度の適切な運用

- (1) 人物かつ成績優秀者（サークル活動優秀者含む）に対する奨学生採用・更新支援
- (2) 国の修学支援新制度に関する円滑な申請等手続支援
- (3) JASSO（日本学生支援機構）の給付・貸与奨学金に関する円滑な申請等手続支援

4. 障害のある学生への支援

- (1) 本学支援体制に対する事前の理解啓発の促進
- (2) 入学者選抜に関連する事前相談への対応及び適切な配慮の実施

(3) 修学・学生生活全般に関わる相談への対応及び適切な配慮の実施

5. 社会的ルール・マナー教育

(1) 大学生として相応しいマナーの確立

(2) 事件、事故等に対する自己防衛・危険回避のための注意喚起

(3) ソーシャルメディア利用に関する利用上の注意喚起

(4) 20歳未満の飲酒、喫煙、薬物乱用等の犯罪行為に関する注意喚起

5章 地域連携・社会連携

中期目標

大学が有する人的・知的資源等を活用し、地域に立脚する大学として、地域と共に歩み、地域の発展に寄与してまいります。

”人づくりが拓く街づくり”をコンセプトに、「人づくり事業」、「地域連携事業」、「地域研究事業」の3つを柱として地域社会との連携を深め、北九州市の活性化に貢献いたします。

実施計画

1. 地域の人づくり及びその活動の拠点づくり

- (1) 北九州市との連携による北九州市民カレッジへの参画
- (2) 年長者大学校との連携による穴生学舎シニアカレッジへの参画
- (3) 九州国際大学地域連携センター市民講座・市民相談の実施
- (4) 同窓会・OB 実務家等による生涯学習講座（リスクリング含む）の実施
- (5) 学生主体の自立的学習体制の整備に向けた支援
- (6) 生涯学習事業の担い手育成に向けた実務家・OB 起業家等との交流促進

2. 地域連携事業の拠点づくり

- (1) 地域連携推助成事業の強化
- (2) 地域連携(産官学民連携)の強化
- (3) 地域の企業、団体、商店街等との連携による地域づくり
- (4) 地域におけるゼミ活動報告・PR

3. 地域研究の拠点づくり

- (1) 地域の調査研究
- (2) 地域課題解決型研究活動の推進

6章 国際化推進

中期目標

留学生を支援する仕組みを充実・強化し、特徴ある能力を持つ留学生を育成し、キャリア開発に貢献します。ここだけの“国際大学”、ここだけの特徴的な学び“を実践し、留学生の就職実績でピカリと光る大学を目指します。

実施計画

1. 外国人留学生への新たなプログラムの導入及び支援プログラム強化
 - (1) 日本語補講講座の企画・開講
 - (2) Buddy 制度・メンタリー制度の創設による外国人留学生の満足度向上
 - (3) 日本語スピーチコンテスト実施

2. 意欲ある学生の海外留学等の促進
 - (1) 日本人留学生への支援プログラム強化
 - (2) ピア・ラーニングを意識した留学報告会の実施
 - (3) 欧米などの協定校増加に向けた取組みの推進

3. 選抜学生に対する特別学修プログラム
 - (1) グローバル教育プログラムの企画・開講
 - (2) 特別インターンシップ・プログラム
 - (3) 韓国の大学とのダブル・ディグリープログラム

7章 就職・進路支援

中期目標

文部科学省の学生支援推進プログラムにも採択された独自のキャリア形成支援プログラム「KIU-SPICE (Kyushu International University Support Program In Career Education の略)」をアップデートし続け、学生の社会的・職業的自立に関する支援を推進しています。

社会人基礎力、人間力、就職力を身に付けるためのキャリア教育と自己理解・自己開発の機会を授けるキャリア支援を統合して、展開する取組みを学生の多様化ならびに変化する就活環境に対応可能なものへ拡充し、就職率 100%を目指して取り組んでまいります。

実施計画

1. 就職にかかる満足度の向上
 - (1) PROG データの効果的な活用の実施、身につけた能力の可視化
 - (2) 早期活動開始に合わせた個別指導の前倒し実施 (3年生より)

2. 公務員試験合格者実績の向上
 - (1) 1・2年生を対象に公務員ガイダンスを実施
 - (2) 講座受講学生と定期的な個別面談の実施 (サポートデスクの拡充)
 - (3) オープンキャンパスでの公務員相談ブース設置による広報実施

3. キャリア教育プログラムの向上
 - (1) 2・3年生対象の必須科目の新設 (必須科目化)

4. キャリア支援モデルの向上
 - (1) インターンシップ参加を促進するモデルの実施
 - (2) 低学年を対象とした支援モデルの充実

5. インターンシップ制度の推進
 - (1) 大学主催インターンシップの参加要件の改善
 - (2) インターンシップ科目履修者以外の参加者の単位付与に関する見直し

6. 企業訪問・企業開拓による接点の強化
 - (1) 優良企業の開拓、地元企業との深厚、行政との連携強化

九州国際大学附属高等学校

Beyond

可能性をカタチに

附属高等学校では、新たな教育目標として生徒の「自走」を掲げており、教師の指示待ちではなく自ら考えて行動できる生徒の育成を目指します。そこには必ず「伴走」が必要であり、教師が傍で見守りながら適切なアドバイスや励ましを行い、地域No.1の高等学校として生徒の可能性をカタチにします。

8章 附属高等学校運営

中期目標

学校の価値を最大限に高めていくためには、「教員の熱意」、「在学生の元気」、「卒業生の活躍」の3つを掛け合わせた総合の積がその学校のブランド力の源泉となります。

これを踏まえ、第四期中期経営計画（2024-2028）においては、「Beyond-可能性をカタチに～そのことは学生・生徒のためになることか～」をスローガンに、以下の実施計画を着実に遂行することで地域No.1の高等学校になることを目指します。

実施計画

1. 生徒募集

- (1) 休日のオープンスクール
- (2) 放課後のオープンスクール
- (3) 入試問題解説会（中学3年生対象）
- (4) 中学校・塾への説明会
- (5) 中学校 PTA 学校見学の受け入れ

2. 教育改革・学習支援

- (1) 生徒の夢と目標を実現できる学習環境の整備
- (2) 文武両道の実践に向けた部活動の活性化
- (3) Microsoft 365 A5 を活用した ICT 教育の展開
- (4) ICT を活用した実践教育及び教室外活動の展開
- (5) 地域とつながる教育活動の推進
- (6) 学校を核とした人づくり教育による「自走」する生徒の育成
- (7) 総合的探究活動による生徒の「自走」する力の伸長

3. 人間性を養う道徳教育・生活指導

- (1) 挨拶やマナー礼儀作法の習得
- (2) 高校生らしい身だしなみへの指導

- (3) いじめや暴力のない人間関係の構築と教育環境の提供
- (4) 芸術鑑賞や学校行事による豊かな心の育成

4. 地域連携・社会連携

- (1) インターアクト活動を通じたボランティア活動
- (2) 吹奏楽部、応援団、チアリーディング部による社会活動
- (3) 1年生ラブアースクリーン運動（地域清掃活動）
- (4) 3年生および教職員による献血運動
- (5) SDGs や探究活動による各種企業訪問と取材活動

5. 国際化推進

- (1) 海外との姉妹校交流の推進
- (2) 短期留学生の安定的な派遣
- (3) 1年間の長期留学制度による新入生確保
- (4) 長期休暇期間の校内留学制度の充実と情報発信
- (5) 留学生受け入れ促進による全校的な教育効果の拡大

6. 進学・就職支援

- (1) 大学説明会や大学出前授業の実施による学習・進学サポート
- (2) 休暇中の学習フォロー（学習合宿の開催等）
- (3) 選択制課外の定着と効率的運用
- (4) 放課後の自習室システムの導入

九州国際大学附属中学校

Beyond

可能性をカタチに

附属中学校では、「K点突破」を合言葉に教科学習と体験学習のバランスの取れた教育課程を編成し、先進的・独創的な教育活動を展開することで生徒の学力や人間性を育みます。

将来の職業選択・大学選択へとつながる能力の礎を築き、地域No.1の中学校として生徒の可能性をカタチにします。

9章 附属中学校運営

中期目標

学校の価値やブランド力を最大限に高めていくためには、「教員の熱意」、「在学生の元気」、「卒業生の活躍」の3つを掛け合わせた総合の積が重要になります。

これを踏まえ、第四期中期経営計画（2024-2028）においては、「Beyond-可能性をカタチに～そのことは学生・生徒のためになることか～」をスローガンに、以下の実施計画を着実に遂行することで地域No.1の中学校になることを目指します。

実施計画

1. 生徒募集

- (1) 各種媒体を活用した本校イメージの発信
- (2) 授業や学校の様子をPRする動画の活用
- (3) 保護者・卒業生をはじめとした様々なコネクションを活用した広報活動
- (4) 小学生やその保護者に対する広報活動の充実

2. 教科学習

- (1) 質の高い安定した授業の展開
- (2) 生徒の能力の伸長を図るテスト、課題の展開
- (3) 英語5技能の向上，バランスの取れた育成
- (4) 教科を横断した先進的な学びの展開
- (5) 多様化する学びへの対応
- (6) 客観的データに基づく学習指導の評価・振り返り
- (7) 教師の指導力の向上・活性化

3. 体験学習

- (1) 「世の中」について学び、考え、発表する学習の展開
- (2) 地域と連携し、地域の資源から学ぶ場の設定
- (3) 発達段階に応じた活動を盛り込んだ宿泊体験学習

- (4) 個人や集団で表現する力を育てる場の設定
- (5) 将来の社会貢献につながる活動の場の設定

4. 学習支援

- (1) 学習計画の策定・学習習慣の確立に向けた支援
- (2) 学習意欲の喚起・課題解決能力の育成
- (3) 資格検定取得へのチャレンジ

5. 生徒指導・生徒支援

- (1) 生徒と教師の人間関係づくり
- (2) 生徒情報の共有と教師間での共有
- (3) いじめ問題に真摯に対応する体制の構築
- (4) 生徒が相談しやすい環境づくり
- (5) 安心・安全な環境づくり
- (6) 健康であり続けるための体づくり
- (7) 不登校や障害等合理的配慮を要する生徒への個別支援

6. 進路指導

- (1) 学びの軌跡の記録、今後の「道しるべ」の作成
- (2) 将来の社会に貢献する人材の育成
- (3) 自己実現を目指した学習支援
- (4) 卒業後の進路の実態把握

学校法人

Beyond

可能性をカタチに

学校法人九州国際大学は、学生生徒のみなさまの可能性をカタチにすることを第一に、多様なニーズや社会の変化に対応した教育環境の整備を行ってまいります。

また、教育の場に従事する教職員の資質能力を最大限に引き出し、教育効果を高める施策を展開することで、経営を好循環に導く行動変革を促します。

10章 経営管理

中期目標

少子高齢化、グローバル化、Society5.0時代の到来など、急激な社会変化に柔軟に対応し、主体的かつ自律的に変革する組織へと成長させ、改正私立学校法への対応をはじめとして九国ブランドを一層強化し、学園のトータルイメージを向上させます。

そのために、健全な経営体制の構築に向けて、教職員の資質向上、ウェルビーイングに資する取組みを重視し、経営理念の浸透に注力することで、共通の価値認識及び成果を求める行動様式の形成を醸成します。

また、部門間の対話を重視した行動を加速し、アクションの進展を「見える化」する方を浸透させ、組織風土に変革をもたらし、新たな価値を創造します。

実施計画

1. 健全な経営に資するガバナンス機能の向上

- (1) 改正私学法を踏まえたガバナンス体制及び内部統制システムの再構築
- (2) 役員及び教職員間の円滑なコミュニケーションによる組織力強化
- (3) 内部統制を意識した組織・風土改革
- (4) レピテーションリスクに注視したリスクマネジメント強化
- (5) コンプアイアンスとリスク管理の表裏一体的推進
- (6) 大学の社会的責任（USR－University Social Responsibility）の追及
- (7) ステークホルダー満足度（CS－Customer Satisfaction）の追及
- (8) 中期経営計画のKPIモニタリング

2. インプット・アウトプット意識した生産性の向上及び経営の効率化

- (1) 教職員の資質向上に向けた体系的かつ効果的な研修の実施
- (2) 事務職員新人事給与制度の適切な移行及び同制度を活用した人材育成
- (3) 教育職員の人事制度の見直し検討
- (4) VUCA時代におけるフレキシブルな人材確保
- (5) 多様化する社会を意識したウェルビーイング経営の推進

- (6) ICT を活用した教職員間の情報共有・チーム活動の支援
- (7) 紙ベースの業務見直しによる生産性の向上
- (8) 「攻めの経営」実現に向けたデータ分析環境の整備及び業務高度化の推進

3. 九国ブランディングによる発信力強化

- (1) ロゴ・スクールカラーの統一化によるスクールアイデンティティの醸成
- (2) 九国イメージを伝えるホームページ戦略の展開
- (3) 同一学園内進学、教育連携の推進に向けた取組支援
- (4) 設置学校連携イベントの企画・実施支援
- (5) 九国ブランドの強化に向けた周年事業企画

4. 持続可能な経営戦略の構築

- (1) 設置学校における新機軸（学部・学科・コース・課程等）の検討
- (2) スポーツサークル、部活動に関する基本政策の検討
- (3) 経営基盤の安定に資する新規事業の開発
- (4) 地域社会や他法人との関係構築による課題解決

11章 財務

中期目標

安定的な収入を確保し、経常収支差額の均衡を意識した支出構造を維持します。そのうえで、教育の質向上、九国ブランドの強化に資する投資計画について、設置学校の計画と財務計画の整合性を図り財務計画に組み込み、費用対効果の最大化を図るようPDCAサイクルを好循環に導きます。

実施計画

1. 収入の維持改善に向けた取り組み
 - (1) 学費等改定及びその他の収入増加策検討
 - (2) 寄附事業（Habataku みらい募金）の促進
 - (3) 資金運用方針の明確化及び運用による一定の利息収入の確保
 - (4) 教室や駐車場等の遊休資産を活用した収益事業の展開

2. 支出の維持改善に向けた取り組み
 - (1) 物品調達方法の工夫によるコスト削減
 - (2) 光熱費のモニタリング及びエネルギーコストの削減に向けた啓発活動の推進
 - (3) 電話・インターネット・複合機等の見直しによるオフィスコストの削減
 - (4) 不採算事業の見直し
 - (5) 人事計画及び事務職員人事給与制度の適切な運用による人件費の総額管理
 - (6) 施設設備等の中長期的な修繕計画に基づくコストの平準化

3. 第四期中期経営計画に基づく財務計画
 - (1) 教育の質保証に向けて学校の魅力を高める教育改革投資の設定
 - (2) 学生生徒の満足度を高める教育環境整備投資の設定
 - (3) その他学園のブランド力向上に寄与する投資の設定

12章 施設整備

中期目標

多様なニーズに対応する教育、Society 5.0 時代を担う人材育成等を視野に、将来のキャンパスのあり方を考え、ICT 環境を含めた先進的な教育環境を整備します。同時に学生生徒が教室以外で過ごす時間を豊かにできる空間を創出し、現有資源の最適化を図ります。

キャンパスの満足度を高めるアプローチとして、データやエビデンスに基づくファシリティの分析を行い、現状を可視化します。コストミニマムでキャンパスの価値を最大化するため、設置する学校の定員規模や機能性を意識した将来のキャンパスのあり方を考え、施設設備の持続性（サステナビリティ）を向上させます。

実施計画

1. 戦略的な施設アセスメント
 - (1) 改善に向けた適切な方針決定のための施設管理データの蓄積・分析
 - (2) ファシリティマネジメント業務の自律的革新に向けたセルフアセスメント実施
 - (3) 施設点検パトロールによる老朽状況の把握
2. 修繕・保全計画の見える化及び予防保全への転換（予防保全基本計画）
 - (1) 目標耐用年数を設定した保全計画の策定
 - (2) 財政支出の平準化を念頭に置いた持続可能なメンテナンスサイクルの確立
 - (3) 施設の性能維持及び安全性確保を前提とした計画の策定
3. 所有建造物の長寿命化計画に基づくファシリティマネジメント（長寿命化基本計画）
 - (1) 建造物の主要構造部に関する日常的監視及び計画的メンテナンスの実施
 - (2) 不具合改修に加え現在の求める水準に機能性を高める長寿命化改修の検討
 - (3) 教育改革に沿った機能変更及び更新施設等のダウンサイジング検討
4. SDGs を意識したコスト削減・環境負荷低減対策（省エネ基本計画）
 - (1) 環境負荷の低減に配慮し省エネ化・省資源化の推進を図る行動変革
 - (2) 環境配慮型製品を意識した施設設備への転換
5. 魅力あるキャンパスづくりに向けたアクションプラン（Campus 魅力向上基本計画）
 - (1) 未利用土地・未利用空間活用推進等に関する検討
 - (2) 環境と調和した一貫性のあるキャンパス誘導サインの検討
 - (3) ユニバーサルデザインを目指した教育環境づくり
 - (4) 安全安心なキャンパスづくりのためのセキュリティ・防犯対策

- (5) 平野地区・枝光地区両キャンパスの課題解決に向けたアクションプラン

- 6. 教授法改革と連動した教育の情報化支援（教育の情報化推進計画）
 - (1) 新しい学びに対応した PC 教室の運用転換
 - (2) デジタル時代に即した教室環境のあり方の検討
 - (3) ハイフレックス型授業対応設備の導入
 - (4) 無線 LAN 環境の品質向上・安定化
 - (5) 柔軟な運用・セキュリティ向上のためのクラウドの段階的活用
 - (6) 学生生徒向け教育サービスの改善及びその継続的拡充

関係資料

長期的な未来を見据え、本法人が成長していくために、全教職員が以下の項目を共通認識し、同じベクトルで改革を推進してまいります。

第四期中期経営計画(2024-2028)KGI・KPI ダッシュボード (24 頁)

本法人の5年後のあるべき姿(KGI)を「地域に必要とされる学園(地域No.1)」、「健全な経営基盤のもと透明性の高い安定的持続的経営」と位置付け、その目的を達成するための業務プロセスの指標(KPI)を定め、業務の進捗状況を数値等で定量的に把握し、PDCAサイクルの円滑化を図ります。

その数値等のプロセス指標について、主な項目をKGI・KPIダッシュボードとして取り纏め掲載しています。

中期経営計画の実効性を高める組織創造に向けた全体像 (25 頁)

本法人が設置する学校の教育効果を高め、経営を好循環に導く行動変革を促す施策を計画しています。その計画の実効性を高める組織創造の全体像を示し、全教職員が同じベクトルで改革を加速させていきます。その全体像について掲載しています。

改正私学法等を契機として健全な経営を行う重要な機能 (26 頁)

改正私学法(令和7年4月1日施行)は、我が国の公教育を支える私立学校が、社会からの要請を得て、一層発展していくため、社会の要請に応え得る実効性あるガバナンス改革を推進する制度改正です。このことへの対応を契機として、ガバナンス改革はもとより、本法人の魅力や信頼性を高める行動様式等について重要な機能を示しています。

本法人が求める人材像 (27 頁)

「中期経営計画の実効性を高める組織創造に向けた全体像」、「健全な経営を行う重要な機能」等を踏まえて、本法人が求める人材像を示し、職員力を高め、組織全体の高度化を図ってまいります。

九州国際大学中期経営計画サマリー (28 頁)

九州国際大学は、VUCAの時代の下、「地域教育」「国際教育」を柱として、ステークホルダーにとって魅力あふれる大学としてのPositionを確立します。「ここだけの地域貢献」「ここだけの国際教育」「ここだけの特徴的な学び」「ここだけの就職実績」など、ここだけのユニークな特徴をもつ大学づくりに向けた全体像(概要)を掲載しています。



第四期中期経営計画(2024-2028) KGI・KPI ダッシュボード

| | |
|-------|---|
| 建学の精神 | 単に知識を授けるばかりではなく、塾的精神により、相互に心的鍛錬をなし、もって誠実有為なる人材を育成する |
|-------|---|

| | |
|----------|---|
| KGI (目的) | 建学の精神に基づき九国生の夢を叶える「魅力ある教育」、「豊かな人間教育」を实践し、地域に必要とされる学園(地域No.1)を目指す。 北九州市の地に立脚し、地域に必要な学園で在り続けるために九国ブランドの発展に努め、健全な財政基盤のもと透明性の高い安定的持続経営を実現する。 |
|----------|---|

| KPI (目標) | 中身 | | | | | | | KPI (目標) | 経営基盤 | |
|----------|------------------------|----------------------------|------------------------------|---------------------|------------------|--------------------|------------------------|----------------------|-----------------------|----------------------|
| | 入口 | 教育 | 学修支援 | 学生生徒支援 | 研究 | 地域連携・社会貢献 | 国際化推進 | | 就職・進路支援 | 経営管理 |
| 大学・大学院 | オープンキャンパス参加者数 1000名 | 授業アンケート全体平均評価 4.0以上 | 資格講座受講者の30%が3年までに資格取得 | 健康診断受診率 100% | 外部資金獲得 年間1000万円 | 市民カレッジ講座開講数 20講座 | 外国人留学生比率 10% | 実就職率 97% | 管理職研修実施 年1回 | 寄附金額 年2000万円 |
| | 出張講義・大学見学会実施回数 68回 | 卒業時アンケート全体平均評価 4.0以上 | 資格講座受講者の30%がTOEIC800以上達成 | 食堂利用者・売上 前年比 5%増 | 研究倫理教育研修参加率 100% | シニアカレッジ講座開講数 全5回 | JLPT N1取得者数 3年生までに全員取得 | 卒業生に対する就職率 85% | 階層別研修参加率 100% | 受取利息収入 年800万円 |
| | 意見交換会の実施回数 年2回 | 科目ごとのGPAと学生の自己評価の一致率 80%以上 | もの企画・もの作り・もの販売講座受講者 30名 | 学生満足度アンケート回答率 80%以上 | 学術シンポジウム実施回数 年2回 | 市民講座・市民相談実施回数 全20回 | 外国人留学生の一部上場企業就職率 10% | 公務員合格者数 40名 | 自己啓発支援制度利用者数 年5名 | 法人税法上の収益事業収入 年4500万円 |
| | | アセスメント入力率 100% | ボランティア活動 1~3年生の5%が参加 | 体育施設利用者講習会 各学期10回 | | 九国大独自講座 2講座以上 | 交換留学生(派遣) 50名 | 1・2年生向け就職支援行事の実施 年3回 | ICTリテラシートレーニング受講率 90% | 光熱費削減啓発活動 年4回実施 |
| | | PROGテスト受検率 100% | 入学前教育キッドリル受講率 100% | サークル指導者研修会 年2回 | | 地域連携推進助成事業 10件 | 交換認定留学生(派遣) 50名 | 人気上位企業開拓 50先訪問(5ヵ年) | 障がい者雇用法定雇用率 100% | 人件費比率 55% |
| | | FD・SD実施回数 年5回 | 初年次教育キッドリル受講率 30% | 自治会等との定例会議 年2回 | | | 外国人留学生満足度 100% | | 教職員健康増進施策参加率 70% | 教育研究経費比率 30%以上 |
| | | FD・SD教職員参加率 100% | 図書館出数の増加 前年比 5%増 | | | | 地域を巻き込んだ国際交流イベント 年間5回 | | 従業員満足度向上活動の実施 年3件 | 管理経費比率 8%以下 |
| | | | 私立大学等改革総合支援事業 タイプ1、タイプ3採択 | 図書館施設利用数 前年比 5%増 | | | | | ペーパーレス化推進削減率 50%削減 | 経常収支差額比率 3% |
| 高等学校 | オープンスクール参加者数 4700名 | 授業支援ツール利用率 70% | 選択制課外授業履修率 70% | クラブ活動参加率 60% | 授業アンケート 年2回 | 地域との連携行事 年5回 | 韓国姉妹校交流 年2回 | 4年制大学進学率 90% | 中高大ICT教育情報交換 年3回 | 主要構造部大規模事業費 予算比実績95% |
| | 新入生第一志望率 60% | 探究活動実施 年10コマ | 校内wifiカバー率 100% | 学内清掃活動 年1回 | 模試分析等教科会毎週1回 | ボランティア活動実施 年3回 | オーストラリア姉妹校派遣 25名 | 国立大学合格者 200名 | 大学・高校教職員合同研修会 年2回 | |
| | 入学者数 540名 | 職業体験 年1回 | 放課後自習室利用者 150名 | ふれあい研修参加率 95% | 新任研修 年1回 | 地域イベントへの参加 年2回 | 短期・長期海外留学参加者 50名 | 旧帝国大学合格者 20名 | | |
| | 中学校・塾説明会 年30回 | 人体解剖見学年 1回 | 芸術鑑賞 年1回 | 頭髪服装検査 年6回 | オンライン教職員研修 年1回 | 学校献金 年2回各90名 | グローバルスタディアプログラム参加者 40名 | 校内大学説明会 年1回 | | |
| | 中学校PTA学校見学会 年10回 | 教養進路ガイダンス 年2回 | 宿泊研修 年1回 | いじめアンケート 年2回 | 授業力向上セミナー 年1回 | ラブアースクリーン 年1回 | 海外からの留学生受け入れ 5名 | 医歯薬系説明会 年1回 | | |
| | | | | | ICT教育アンケート 年3回 | | | | | |
| 中学校 | 入学者数 90名 | ICT教育満足度 90% | 英検取得率 95% | 教育相談 年2回 | 公開授業 年1回 | 生徒会主導の社会貢献活動 年1回以上 | 海外体験教室 年1回 | 付属高校入試 N・Sクラス合格者 50名 | | |
| | インスタッフフォロー 800名 | 特設授業 年3コマ | 英検、漢検、教検 三冠王 85% 準2W 40% | 大丈夫?アンケート 年5回 | 校外研修参加 年3名 | | | 付属高校入試 特准合格者 40名 | | |
| | ホームページ更新 年50件 | ネイティブとの英会話時間 10倍 | 自由研究、作文・作品展等応募 1人1作品以上 | 生徒指導委員会開催 年5回 | 教員交換研修 年1名以上 | | | 公立入試 トップ校合格者 40名 | | |
| | オープンスクール等広報行事参加組数 700組 | 授業動画ライブ配信 225コマ | 「Global Study Program」参加者 9名 | 校長面談 年1回 | | | | 公立入試 上位校合格 25名 | | |
| | | | スクールカウンセリング 年22回 | | | | | | | |

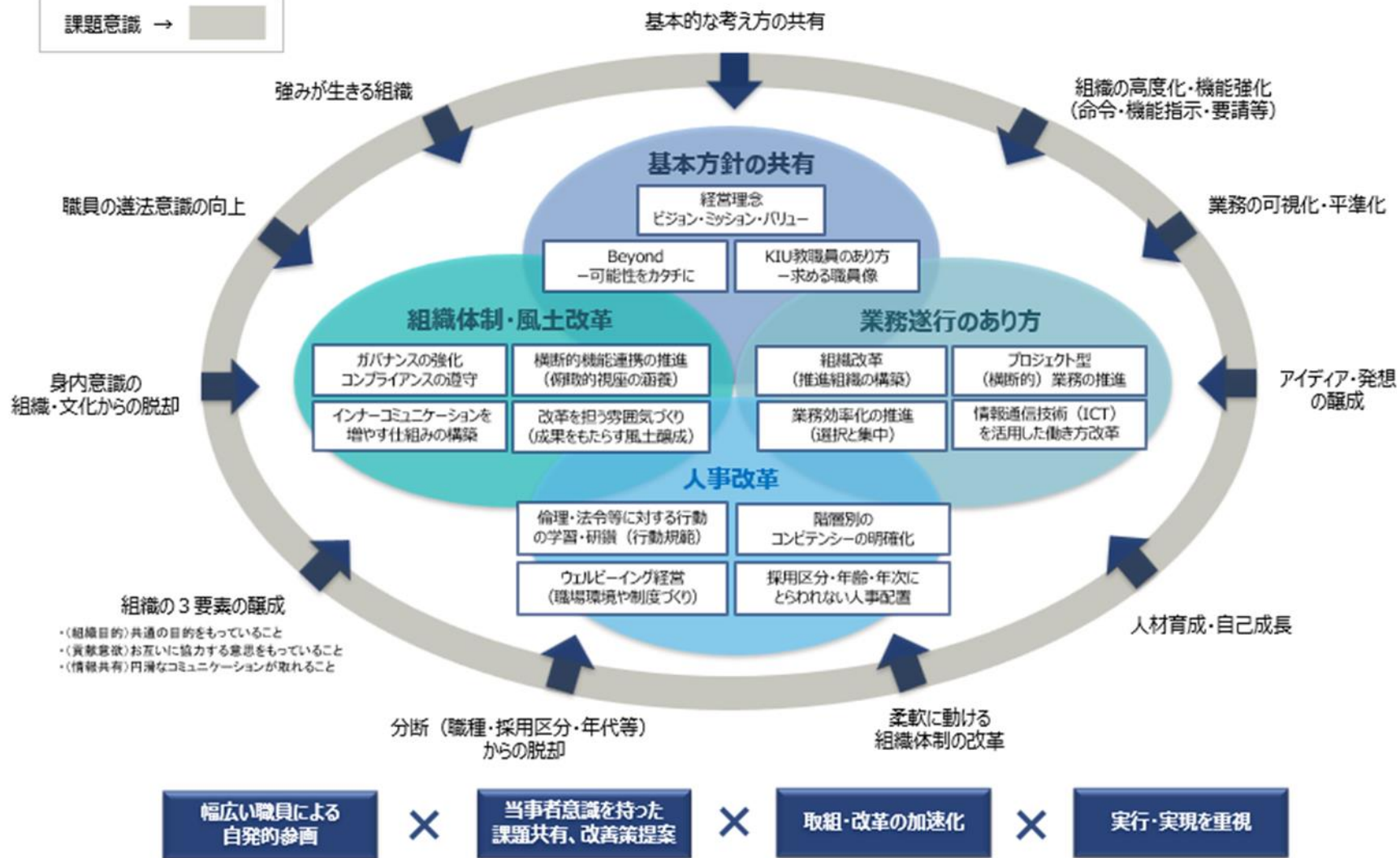
目的を達成するためのプロセス評価指標

目的を達成するためのプロセス評価指標

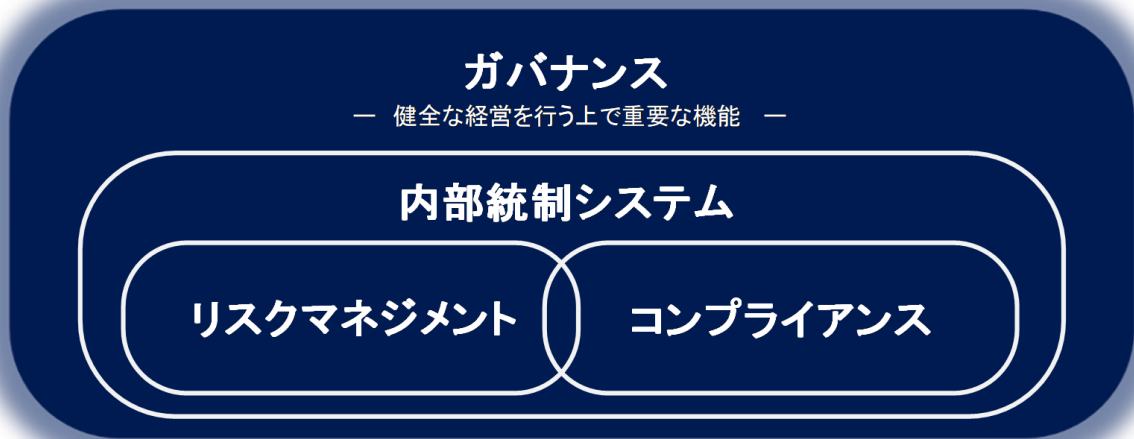
学校法人

中期経営計画の実効性を高める組織創造に向けた全体像

課題意識 →



今後、本学園として推進すべき人材育成及び組織構造改革のあり方について、「文部科学省未来検討タスクフォース（報告）」を参考に作成。



| 機能 | 概説 | 関連事項 |
|--|---|--|
| ガバナンス | ガバナンスとは、日本語では「統治・支配・管理」と訳され、健全な経営を行うために求められる管理体制の構築や企業の内部統治を指します。 具体的には、内部統制やリスクマネジメントに特化した専門部署の設置、役割と指示系統を明確にする新たな仕組みづくりなどが挙げられます。事業者とステークホルダー(利害関係者)とが強固な信頼関係を築いていくためにもガバナンス体制を築き強化していくことが重要です。 | <ul style="list-style-type: none"> ■ 私学法対応 ■ 寄附行為 ■ ガバナンスコード |
| 内部統制システム | 内部統制システムとは、代表者の業務執行が法令や定款に適合することを確保するための体制、および当該法人等の業務の適正を図るために必要なものとして法令で定める体制の整備のことです。 | <ul style="list-style-type: none"> ■ 組織改正 ■ 委員会整理 ■ 専決事項 |
| リスクマネジメント | リスクマネジメントとは、組織を取り巻くリスクを網羅的に把握し、重要と思われるリスクを抽出した上で、対応策を講じる事前策とリスクが顕在化したときの緊急時対応である事後策(クライシスマネジメントや危機管理という。)を併せたものをいいます。 | <ul style="list-style-type: none"> ■ リスクマネジメント ・リスク管理規程 ・リスク管理レポート等 ■ クライシスマネジメント ・BCP等 |
| コンプライアンス | コンプライアンスは一般的に「法令遵守」と訳されます。コンプライアンスが対象とするのは、法令以外の社会的ルールやモラルまで広く内包されます。法人のコンプライアンスを維持することは、その法人の存立にも直接関わるほどの大切な要素です。法人のコンプライアンス遵守の意識を強化することで、リスクを未然に予防し、ひいては、社会的な信頼を得ることに繋がり、やがては学校の魅力の向上にも直結します。 現在、社会的に信頼されて、業績を伸ばしている事業者は、「コンプライアンス遵守」という、目に見えない地道な努力を粛々と続けています。 | <ul style="list-style-type: none"> ■ 行動規範 |
| CSR (Corporate Social Responsibility) | CSR(Corporate Social Responsibility)とは、本法人が社会的存在として果たすべき責任のことです。日本語では「社会的責任」と言われています。 法人が適切にCSRを果たすことは、信頼向上や人材採用・定着への好影響、法令違反のリスクを低減するなどの観点から非常に重要です。CSRの7つの原則を踏まえた上で、企業におけるCSRを参考に、自法人が取り組むべきCSR活動を以下に列挙します。 (7つの原則) ① 説明責任: 法人自らが社会・環境などの外部に与える影響を説明し、責任を負うこと ② 透明性: 法人自らが社会や環境に 影響を与える意思決定と、事業活動の透明性を保つこと ③ 倫理的な行動: 誠実・公平であるべきなど、論理的に行動すること ④ ステークホルダーの利害の尊重: 学生生徒・保護者・卒業生・教職員等に配慮し対応すること ⑤ 法の支配の尊重: 各国の法を尊重し、守ること ⑥ 国際行動規範の尊重: 法律のみならず、国際行動規範も尊重すること ⑦ 人権の尊重: 事業活動において人権を尊重し、重要かつ普遍的な両方を認識すること | <ul style="list-style-type: none"> ■ 情報公開 ■ 認証評価(学校評価) |
| CS (Customer Satisfaction) | CS(Customer Satisfaction)とは、顧客満足度のことを意味します。購入・利用した商品やサービスに、顧客がどの程度満足したかを数値化したものを指します。 マーケティング活動のゴールは、継続的に顧客に支持され、長期的に利益をもたらす顧客を創造することにあります。CS調査はこのゴールに照らし、現状を診断するために用いられます。 教育機関におけるCSの向上に向けて重要なことは、教職員一人一人が学生生徒等の価値を起点とした「マーケティング思考」を持つことなどが挙げられます。 「マーケティング思考」とは、「学生生徒を徹底的に知ること」をコンセプトに、「学生生徒等から見た自学の立ち位置」「学生生徒等を感じるベネフィット」「学生生徒等が動いてくださるストーリー」を徹底的に考えることです。 | <ul style="list-style-type: none"> ■ 中期経営計画スローガン「BEYOND」可能性をカタチに そのことは 学生・生徒のために なることか ■ 職員教育(人材育成) ・社会人基本マナー ・来客対応 ・訪問対応 ・電話対応 (基本対応、クレーム対応) ・ビジネス文書 ・交際マナー ・報連相 |

学校法人 九州国際大学 が求める職員像

～学生生徒・教職員との信頼関係のもと、一人ひとりを大きく育てる教育を行う～

1. 本学園の理念を尊重し、中長期計画の実現に向けて自律的に行動できる方
2. 環境の変化をすばやく捉え、前例のない課題に柔軟に挑戦できる方
3. 多様性を尊重し、本学園のステークホルダーと協働できる方
4. 教育機関に従事する者として、自己並びに他者の成長を喜び、その成長を支援することを生きがいにできる方
5. 以上の行動に関し、倫理観と責任感を有する方



九州国際大学附属高等学校
KYUSHU INTERNATIONAL UNIVERSITY HIGH SCHOOL



九州国際大学
Kyushu International University



九州国際大学附属中学校
KYUSHU INTERNATIONAL UNIVERSITY JUNIOR HIGH SCHOOL

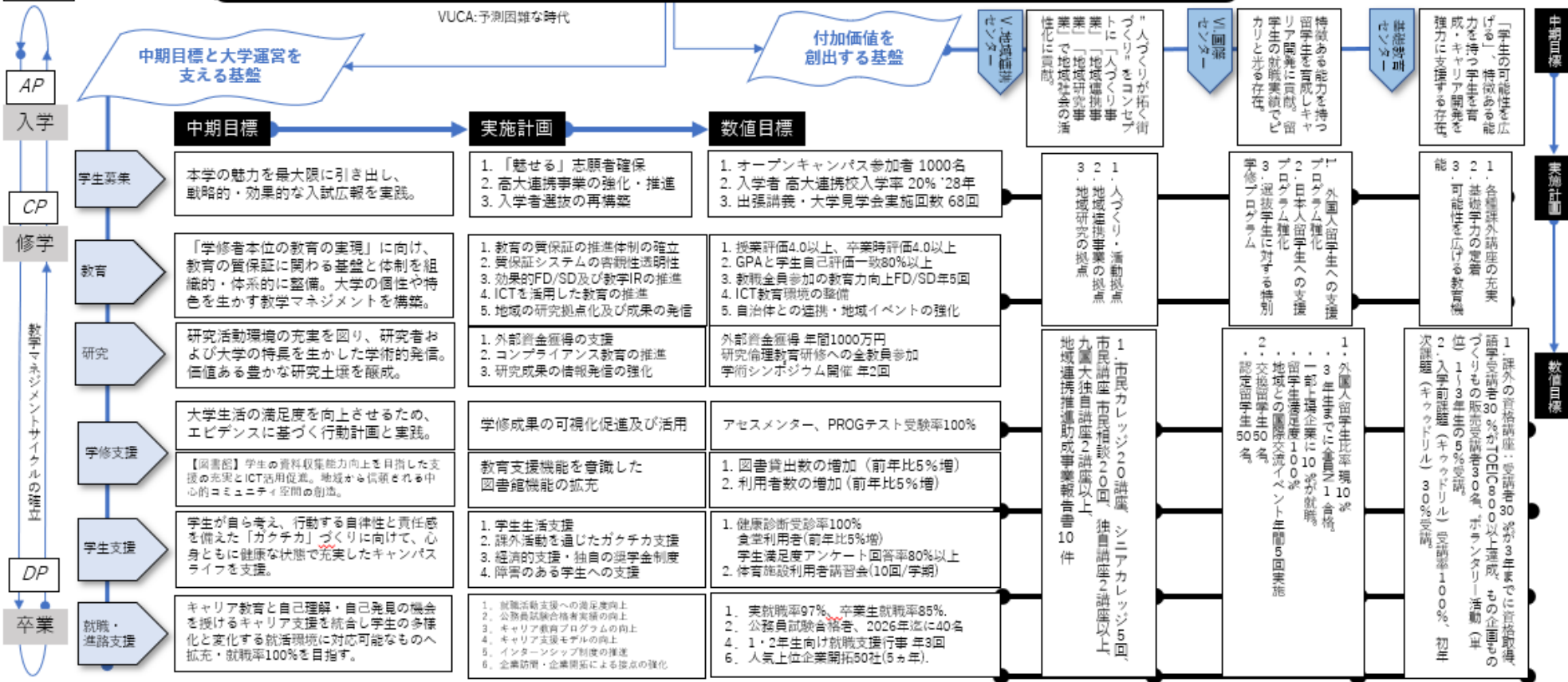
建学の精神 塾的精神 一人ひとりを成長させる大学

AP:アドミッション・ポリシー
CP:カリキュラム・ポリシー
DP:ディプロマ・ポリシー

BEYOND

・個性の伸長と人格の完成を旨とし、専門知識を教授し、北九州の地域に立脚して、国際的視野を持った理論・実践両面に明るい人材を要請することを目的とします。
・大学中期目標：VUCAの時代下、地域教育・国際教育を柱として、ステークホルダー(受験生・在学生・保護者・地域社会・卒業生)にとって、「魅力溢れる地域No.1大学」としてのPositionを確立します。

・魅力：大学が「ここだけ」のユニークさを持つ
 ・ここだけの地域貢献
 ・ここだけの国際大学
 ・ここだけの特徴的な学び
 ・ここだけの就職実績





学校法人 九州国際大学

第四期中期経営計画

(2024 年度～2028 年度)

編集：学校法人九州国際大学 経営企画室

〒805-8513

北九州市八幡東区平野二丁目5番1号

Tel 093-671-8900 Fax 093-671-9032

禁無断転用・転写＜部外秘＞